



福智アンバサダーとして伝え方を学ぶ



観 光担当の町職員が6年生の授業で町の特産品についての説明を7月6日に行いました。初めて聞く内容に児童たちは興味津々。毎週数時間かけてパンフレットを制作し、1学期中に完成させました。児童たちはふるさと学習をおして誰に何をどう伝えたいのか明確にし、相手がより理解しやすい文章構成・構図を考えることの重要性を学びました。

PRパンフレットを作成し感じたこと

6年3組 ^{よしだ てんせい} 吉田 天晟くん



町内の人に読んでもらい、もっと福智町が好きになってほしいです。みんなで福智町の良さを日本中・世界中の人たちに伝えていきたいです。

6年2組 ^{ながとみ ちひろ} 永富 千紘ちゃん



低学年の児童に伝えるためにわかりやすい言葉でリーフレットを作成しました。読んでもらい、もっと多くの人に町のことを知ってほしいです。

6年1組 ^{まるやま ゆず} 丸山 夢珠ちゃん



町外の人にも興味をもってもらえるようカラフルに紹介しました。苺が大好きなので、町のおいしい農産物のことをみんなに教えていきたいです。



ふるさと教育の一環で、金田小学校6年生88人が「福智アンバサダー」に就任しました。アンバサダーとは大使のことで、福智町の全国的な知名度を上げるため、自分たちにできる身近な活動をしていきます。何事もまずは知ることから。PRパンフレット作成では、今まで感じることもなかった福智町の良さを知ることができました。今後、町のイベントに積極的に参加し、SNSで町の情報を発信したり、マスコットキャラクター「福天」の知名度を上げるため、8月1日から始まる「ゆるきやらぐらんぷり」に投票し応援していきます。地元の良いさは離れてから実感しますが、町に住みながら、町を愛し、よりよい町づくりのために行動する若い世代が増えていくきっかけとなることでしょう。



金田小学校 一 六年生 一

ふるさとを応援する 福智アンバサダー

↑ふるさと教育の授業で「福天」もサプライズ登場。下の写真などの特産品について理解を深めました。



金田小
ふるさと教育
ひとりひとりが町をPRする大使に
ふるさとを知る、
好きになる。

金田小6年生の取り組みとして、88人の児童が町を応援するため「PRパンフレット」を作成。福智町の広報大使としてこれから魅力を伝えていきます。

アンバサダー (Ambassador) は英語で「大使」の意味です。カタカナ語では、「親善大使」や「広報大使」などの意味で使われています。

